

神奈川県大会

「ワーク・ライフ・バランスの推進～欧州から学ぶ～」



慶応義塾大学商学部教授
樋口 美雄氏

子育てをする上で何よりも重要なのは、子どもに夢を託せるかどうかです。これまでの少子化対策は、児童手当拡充等の経済的支援や保育サービスの充実が中心で、働き方の見直しは余り重視されませんでした。政府は、女性の就業と育児の両立支援に着目してきましたが、現実には、育児休業制度を利用できる雰囲気できていません。女性の両立支援について議論するだけでなく、男性も含め今までの働き方を今後も続けていってよいのか、そして企業にとっても業務内容を見直し、働き方を変えることによって得るものが大きいのではないかなど、企業にとっても個人にとっても、今の働き方の見直しが明日への投資につながるといった視点から考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

島根県大会・大阪府大会・大分県大会・愛媛県大会

「諸外国の少子化事情から日本の働き方を考える」



アブショナータ Inc.
ワーク/ライフ・コンサルタント
バク・ジョアン・スックチャ氏

近年、欧米諸国やアジアでも、ワーク・ファミリー・バランス（仕事と家庭の両立）に関して、非常に高い関心を持って取り組んでいます。日本の大きな問題は、出生率の低下に歯止めがかからないことです。人口減少は、国内の縮小経済を加速します。男性の家庭参加率の高い国は、労働生産性も国際競争力も高いし、出生率や女性の管理職率も高いのです。今、一番期待するのは、日本人男性の仕事と家庭の両立で、これが出生率を高める大きな鍵になると思っています。

長野県大会

「経営戦略としてのワーク・ライフ・バランス」



学習院大学経済学部特別客員教授
木谷 宏氏

一昨年、「ワーク・ライフ・バランス憲章」が官民の協力によって策定され、「行動指針」として具体的な数値目標も掲げられました。ワーク・ライフ・バランスは、日本社会にかなり浸透したと楽観的ですが、実はものすごく手ごわいテーマではないかとも考えます。本日は、企業とはそもそも何か、これからどうあるべきか、人材はどうあるべきかという外堀を埋めながら、緊急対応的な子育て支援対策でなく、経営の大きな課題として、ワーク・ライフ・バランスが必要だということを皆さんと共有したいと思います。